

平成 28 年度 双葉町復興町民委員会
第 1 回 人の復興部会 報告書

- 日時 平成 28 年 7 月 26 日（火）13 時 00 分から 16 時 00 分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2 階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ

「私たちが希望を持てる今後（5～10 年後）の暮らしを考えよう」

- 問 1. 私たちの暮らしを取り巻く環境は今後（5～10 年後）どのように変化していくのでしょうか。
- 問 2. 私たちは今後（5～10 年後）、どんな暮らしをしていきたいでしょうか。
- 問 3. 今後（5～10 年後）の将来の希望を実現するために、どんなことに取り組んでいくとよいと思いますか。

■ワールドカフェのテーブルで出た意見

ワールドカフェ方式で、参加者は 4 つのテーブルを、3 ラウンド巡回して、多くの参加者と交流しながら、意見を出し合った。

◇テーブル A

《10 年後の双葉町》

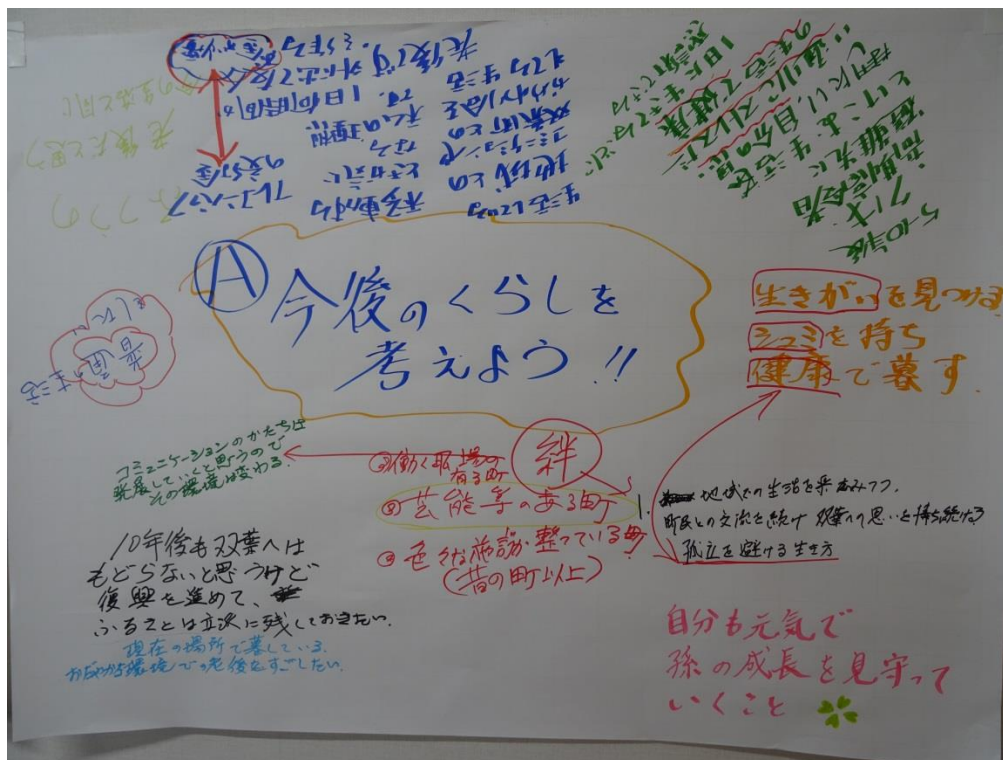
- 10 年後も双葉町へは戻らないと思うけれど、復興を進めて、ふるさととは立派に残しておきたい。
- コミュニケーションのかたちは発展していくと思うので、その環境は変わる。
- 働く場のあるまち
- 芸能等のあるまち
- いろいろな施設が整っているまち(昔のまち以上)

《高齢者の生き方》

- 現在の場所で暮らしている。穏やかな環境で老後を過ごしたい。
- 普通の老後だと思う。今の生活と同じ。
- 自分も元気で孫の成長を見守っていくこと。
- 地域での生活を乐しみつつ、町民との交流を続け、双葉への思いを持ち続ける。
- 孤立を避ける生き方
- いきがいを見つける。趣味を持ち、健康で暮らす。
- 71 歳。5～10 年後には後期高齢者。
- 自分の思い通りにストレスなしの生活で健康でいる。
- 1 日 1 日生きていることに感謝できる。

《地域との交流》

- 避難先に溶け込む生活をしたい。
- 生活している地域とのコミュニケーションや双葉町とのかかわりあいを持てる生活。
- 移動手段が気になる。
- 1日何時間か外に出て友人を作る。お金が必要。



◇テーブルB

《家族と普通の生活がしたい》

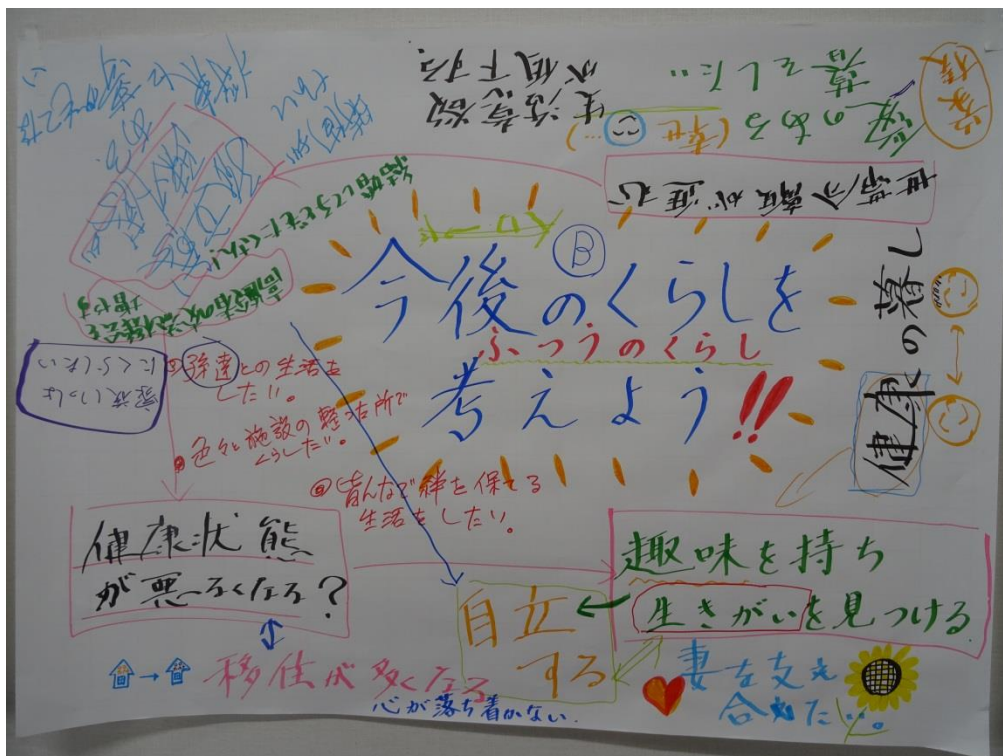
- 普通の暮らし
- 孫達と生活をしたい。
- 愛のある暮らしをしたい。
- 結婚して子どもたくさん
- 家族一緒に暮らしたい。
- 妻と支えあいたい。

《心配事》

- 健康状態が悪くなる。
- 移住が多くなる。
- 心が落ち着かない。
- 孤立感、疎外感がある。
- 将来に夢が持てない。
- 時間がない。
- 生活意欲が低下する。
- 世帯分離が進む。

《自立した生活》

- 自立する。
- 趣味を持ち、生きがいを見つける。
- 健康な暮らし
- 高齢者の交流機会を増やす。
- いろいろと施設の整った場所で暮らしたい。
- みんなで絆を保てる生活をしたい。



◇テーブルC

《子どもたちの未来》

- 孫との生活
- 孫と穏やかに暮らしたい。

《地域と交流》

- 高齢者も地域に馴染めるような環境
- 近所付き合いをよくしたい。
- 地域に交わる⇔住む場所の雰囲気
- 隣人との友愛

《町民の交流》

- 双葉町民で集まりたい。
- 町民同士の交流
- 交流の場を増やしたい。
- 地域との交流。日中、仕事の人にはよけいに孤立する。
- 自治会同士の交流

《高齢者の支援》

- 高齢者に対する取り組み
- 介護生活。介護士を増やしてほしい。
- 老老介護を脱皮して、趣味を持つ。交流、友達を作る。
- 送迎＝移動手段がない

《ゆとりある生活》

- ゆとりある生活をしたい。
- ストレスのない生活
- 夫婦で旅行

◇テーブルD

《子どもの未来》

- 子どもと一緒に帰りたいが、子ども達の職場の関係が心配だ。
- 年に一度は子ども、孫と旅行をしたい。

《健康づくり》

- 健康を保つため、自分なりに体を動かし、楽しい人生を送る。特に、ストレスをためない。

《普通の生活》

- 夫婦仲良く平凡な暮らしをしたい。そのためには健康第一。
- 明るく幸せな山根家。家族が増えている。庭で家庭菜園。
- 普通通りの生活

《地域の交流》

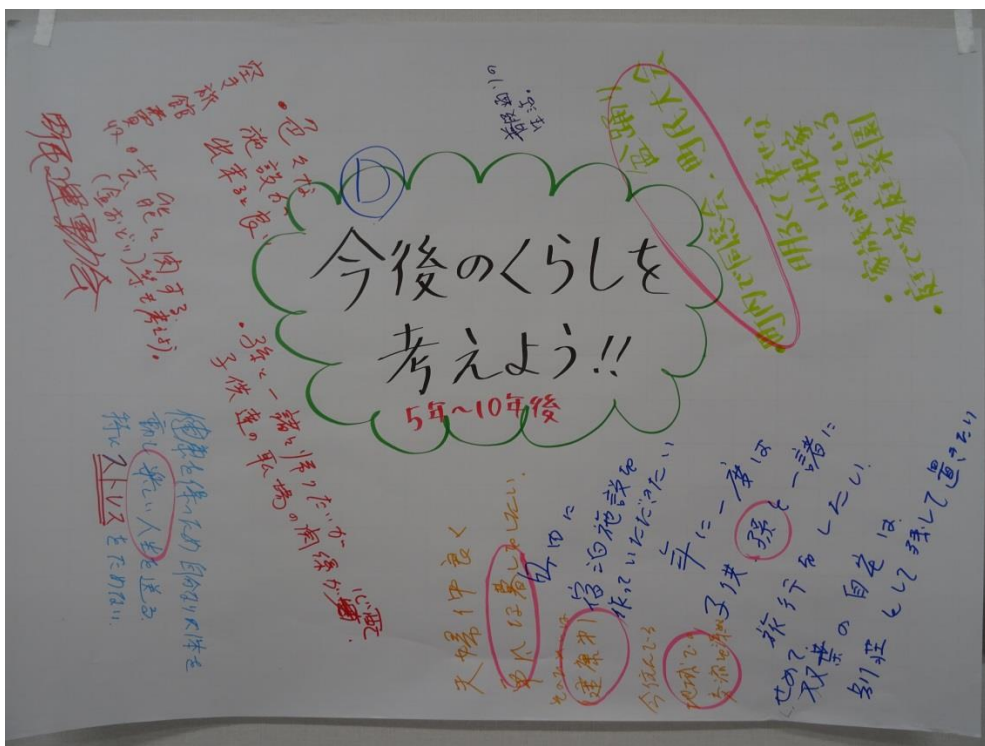
- 今住んでいる地域での交流を深める。
- せめて双葉の自宅は別荘として残しておきたい。

《芸能など》

- 芸能に関する（盆踊りなど）等も考えよう。
- 町民運動会
- 盆踊り
- 町内で同窓会。町民大会。

《施設の整備》

- 町内に宿泊施設を作っていただきたい。
- 空き旅館の買収
- いろいろな施設ができるとよい。



■将来の希望を実現するために今後（5～10年後）取り組みたいこと。

将来の希望実現へ向けて、今後、参加者が取り組みたいことを一人ずつ発表した。

《テーブルA》

- 長期的に避難生活が続くので、生きがいのある生活について考えた。まずは健康でいること。自身でも運動をしており、渋谷区で高齢者向けの運動に積極的に参加している。2つ目に、趣味を見つけること。趣味を通じてみんなに会う機会を増やす必要がある。3つ目に、人と接触して孤立しない生き方が大切と考えた。
- 生きがいを見つけることが大切であり、生きがいを発見するための手助けをしたい。自分は太鼓があったから生きてこられたので、他の人にも生きがいを発見してほしい。そのためには健康が大事であり、健康づくりの機会を増やしてほしい。
- 医者に痩せたほうがよいと言われ、週に4日ジムに行っている。健康であることと人（町民）との交流が大切。
- 人との交流や健康維持にはお金が必要。これまでは自宅でお茶などをしながら交流できたが、今は喫茶店などでの交流となっている。

《テーブルB》

- 様々な情報に惑わされており、正しい情報を人と共有しあっていく必要がある。また、状況のわかる人と気持ちを通わせて過ごしたい。
- いろいろ希望はあるが、まずは即実行、実現していただきたい。10年先20年先のことを考えているが、高齢なので時間がない。具体的には、高齢者の交流の機会確保と交通手段の確保を考えてほしい。
- 健康であることと普通の暮らしができることが一番大事だと思っている。双葉町にいたころは、そこに行く人と人が集まっていた、居ないとどうしているかを自然と気にしていた。行政ではなく、お互いが支えあっていた様な見回り体制が必要だ。また、趣味の話も含め、生活支援の体制強化を進めてほしい。

《テーブルC》

- ストレスのない普通の暮らしを望んでおり、今住んでいる地域の人との交流と、そのための場所と移動手段の確保が必要。
- 地域との交流は不可欠で、そのためには費用が必要。さらに、場所も提供してもらえれば交流が広がると思う。一番必要なのは行動力であり、これを持っているのは若い人である。その行動力を大切にしていきたい。だるま市をやっているが、行動すれば笑顔が増えていくと思う。

- 震災後、周りの人に会いたくないという理由で、両親があまり出歩かなくなり、周りの住民との会話がないう。介護士を増やすなど高齢者に対する取り組みをしてほしい。また、自治会同士の交流をしたいと思っている。今年、福島に行って交流してきて、とても楽しかった。全部の自治会と交流会をしたいと思っていて、町の応援もほしい。

《テーブルD》

- やはり健康が第一で、日常的に運動する機会を作り、ストレスをためないようにしたい。今いる地域との交流を深めるために積極的にイベントに参加したり、双葉の人との交流のために定期的に同級会を開催したりしたいと思っている。さらに、若い人の集まりの機会として、同級生だけではなく、より広く30代の人達で集まる機会を作りたい。
- 親子、親戚、知人、友人と交流し、絆を深めていくことが大事だと思う。また、自分の趣味を見つけることが必要かなと思う。まちについては、昔の双葉町以上のまちになるように取り組んでいきたい。
- 1番目は、5年後10年後も夫婦仲良く暮らしたい。そのためには地域との交流や自立が必要だと思っている。2つ目は、家族バラバラになったが、年に1回はみんなで集まること。そのためには健康が大事。3番目は、交流会が開催できるよう双葉町内に誰でも気軽に泊まれるような宿泊施設を作ってほしい。

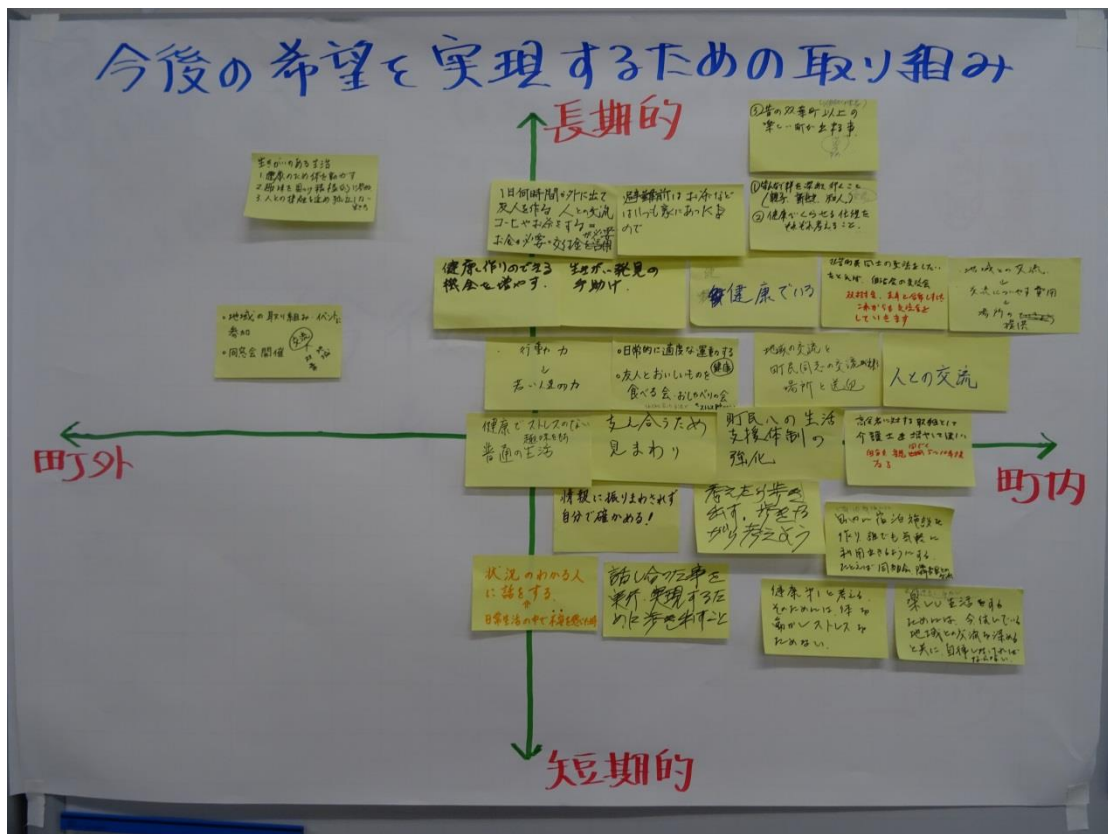
発表の様子



参加者の関心度評価



ワールドカフェの成果



■ファシリテーター金子先生によるまとめ

表1のとおり参加者の意見を施策として集約し、参加者による関心度の評価を行った。評価の結果、ベスト5は以下のとおりであった。

第1位：健康づくりの推進

第2位：若者の行動力を発揮できる交流の場づくり

第3位：町民のふれあいと交流の場づくり

第4位：介護士の増加

生きがい発見の手助け

■ オブザーバーのコメント

- ワールドカフェに初めて参加し、非常に柔らかい表情で忌憚のない意見が出たと思う。今年度は計3回開催されるとのことであるが、皆様のご意見をしっかりと聞いて、復興庁としても何ができるかを町と話をしながら進めたい。(福島復興局：高橋氏)
- 今日のワールドカフェを見ていると、町民同士、知った仲間で楽しそうに感じた。双葉町だけではなく、健康や高齢者、若者など、県全体でも考えていかなければならないと感じた。皆様の暮らしが少しでも充実していくように取り組んでいく。(福島県：後藤氏)

■ 金田副町長コメント：

- キーワードとしては、「健康」「高齢」「若者」があり、絆の維持も含めて生活支援の強化を考える必要がある。
- 2回目、3回目と進む中で議論をさらに深めていただきたい。計画を策定しておしまいではなく、実行することが大事だと認識している。これからもご協力をお願いしたい。

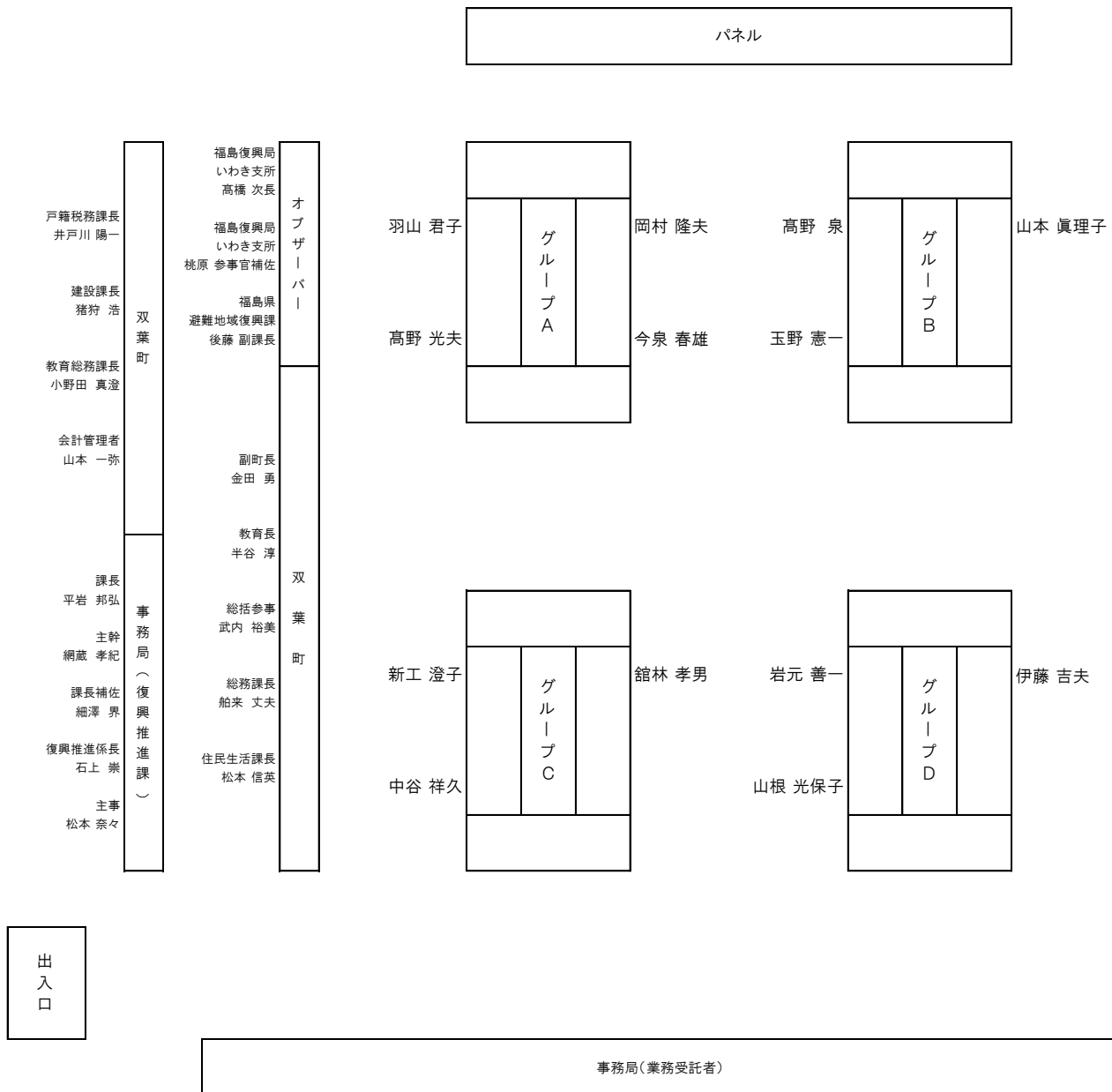
表 1 意見を施策として集約・関心度の評価

	施策として集約	取り組みたいことの見解	評点	順位
高齢者の支援	・交通手段の確保	・高齢者の交通手段	1	
	・お互いに支えあう見回りの仕組み	・支えあうための見回り ・情報に振り回されず自分で確かめる。 ・日常生活の中で不安を感じた時、状況のわかる人に話をする。	1	
	・介護士の増加	・介護士を増やしてほしい。	3	④
生活の支援	・生活支援のお金	・避難前はお茶などいつも家にあった。 ・人との交流にはお金が必要 ・町民の生活支援体制の強化	2	
	・生きがい発見	・趣味を見つけ積極的に参加	3	④
	・健康づくりの推進	・健康のため体を動かす。 ・健康づくりのできる機会を増やす。 ・健康で暮らせる仕組みをそれぞれ考えること。 ・健康でストレスのない普通の生活 ・日常的に適度な運動をする。 ・健康第一と考える。体を動かしストレスをためない。	11	①
交流	・町民のふれあいと交流の場づくり	・人との接触を進め孤立しない生き方。 ・同窓会の開催 ・1日何時間か外に出て友人を作る。 ・みんなで絆を深めていくこと。 ・友人とおいしいものを食べる会 ・町民同士の交流がしたい。 ・自治会の交流会（例、双樹会等）	5	②
	・避難先地域との交流支援	・楽しい生活をするためには、今住んでいる地域との交流を深めるとともに、自立しなければいけない。 ・地域の取り組み、イベントに参加 ・交流についてやす費用 ・場所の提供	2	
	・自治会同士の交流	・自治会同士の交流	1	
	・町内に宿泊施設を整備	・誰でも気軽に利用できるようにする。 ・昔の双葉町以上の楽しい町ができること。	2	
若者	・若者の行動力を発揮できる交流の場づくり	・行動力⇒若い人たちの力 ・話し合ったことを実行、実現するために歩き出すこと。	7	③
町政	・即実行の町政	・即実行の町政	1	

※施策別に参加者一人3点の持ち点で投票し、関心度を評価

双葉町復興町民委員会 第1回人の復興部会 座席表

(敬称略)



㈱URリンケージ / (一財)電源地域振興センター

〔 傍 聴 席 〕